

質問書に対する回答  
首都圏中央連絡自動車道 松尾工事

番号	質問箇所	質問事項	回答
1	特記P.25 25-3-2構造物掘削特殊部A1	横木矢板の設置および存置部以外の横木矢板の撤去・処分とありますが、横木矢板の撤去数量を確認できる資料がございませんので数量をご提示願います。存置となる親杭部分の横木矢板が存置となるものと考えられます。例えば、成田松尾線跨道橋A1橋台では存置横矢板はL-10.1m × H-10.72m=108m <sup>2</sup> で、撤去横矢板は817m <sup>2</sup> -108m <sup>2</sup> =709m <sup>2</sup> になるものと想定されます。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。
2	金抜設計書 番号13 構造物掘削特殊部A2	橋台A2掘削面積から算出した土量3047m <sup>3</sup> と設計数量3198m <sup>3</sup> に差異があります。設計数量の算出根拠を数量計算書の開示がありませんのでご提示願います。	数量計算書の開示は行いませんので、設計図書に示す数量を正としてお考えください。
3	設計番号47、48、49 設計図 土工 1/111 記号説明表	記号説明表において、用・排水管P(Po-A)-1-φ D(Sd-B)、P(Po-A)-1-φ D(Sd-B)(A)、P(Po-B)-φ D(Sd-B)の説明欄に「90° 砂基礎」と表記されていますが、用排水構造物標準設計図集においては「2. (Sd-B)は、パイプの設置条件が半溝形のB型基礎(120° 砂基礎)を表す」と表記しておりますので、不整合と思われます。「90° 砂基礎」が正である場合の詳細図をご教示ください。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。
4	設計番号66	集水ますTypeQのDc(CS)-8.00-1.00-2.70の足掛金物(樹脂製被覆)の詳細寸法が明示されていませんのでご教示ください。	現在内容確認中ですので、確認でき次第お知らせいたします。